

## 組織目標評価報告書（平成22年度）

部局名： 環境理工学部

組織目標		達成状況(成果)	
（下記3項目について、特に目標とする客観的指標がある場合は、数値データを引用して記載してください。）			
教 育	<p>1. 勉学意欲の高い受験生の確保及び社会的要請への対応 高等学校への訪問等積極的な広報活動を継続実施することにより、学部のアドミッションポリシーに対応した受験生確保に努める。 また、入試実績の分析や外部有識者から意見等を聴取することにより、本学部の教育の在り方や内容が社会からの要請にどう対応しているか検証する。</p> <p>2. 教育の質保証への取り組み アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーの策定に向けて検討を進めるとともに、学生の出口での質保証を担保できるような教育方法・内容等の改善に努める。</p> <p>3. 実践型教育の継続及び充実 現代GP終了後の「実践型水辺環境学及び演習」及び「タイ国カセサート大学特別コース」の継続実施並びに「ESD学外実習」をより充実することにより、社会から求められている環境人材育成を図る。</p> <p>4. キャリア教育および学生支援の充実 キャリア教育を充実することにより、学生が卒業後の進路を見通して学業に取り組み、充実した学生生活を送れるよう努める。また、クラスアドバイザー制などを通じて個別指導を行うことにより留年者や退学者の減少に努める。</p>	<p>1. 勉学意欲の高い受験生の確保及び社会的要請への対応 高等学校訪問118校、高校の大学訪問受入14校、高等学校への出前講義16校への広報活動を実施した他、学部案内の全面改訂や受験生向けの進学情報サイトへの参画等情報発信を積極的に推進し、学部アドミッションポリシーに対応した受験生確保に努めた。 また、4月及び7月に外部から講師を招聘し、受験生確保に向けた取組や本学部への社会的要請や今後の戦略について講演会及び意見交換会を実施したことは、今後の検討に向けて有用であった。</p> <p>2. 教育の質保証への取り組み 学部ディプロマポリシーを策定した。引き続き、カリキュラムポリシー策定に向けて検討している。学生の出口での質保証については、各学科において、卒業認定試験や学生の達成度自己点検アンケートの実施等、出口での質保証について積極的に取り組んでいる。</p> <p>3. 実践型教育の継続及び充実 「実践型水辺環境学及び演習」、「タイ国カセサート大学特別コース」及び「ESD学外実習」の実施を通じて環境人材育成が図れた。また、「ESD学外実習」をカリキュラムに組み入れたことで、今後のより一層の充実が期待できる。</p> <p>4. キャリア教育および学生支援の充実 学部必修科目「環境理工学入門」や「キャリア形成論」において、学生が卒業後の進路の見通しを持って学生生活を送れるようキャリア教育の充実を図ると共に、クラスアドバイザーと連携しきめ細やかな学生支援を展開している。このことが今後の留年や退学に至る経緯の改善に繋がると考えている。また、平成21年度の卒業生の就職率が全国理系学部中第9位と高い就職率を維持しており、学生に対する就職支援は充実している。</p>	
	達成度:		④ 3 2 1
	研 究	<p>1. 大学院と連携して、質の高い課題研究を指導することにより、本学部の研究成果を広く社会に還元し、地域社会や国際社会の発展に貢献する。</p> <p>2. キャンパス内の水循環施設等における共同研究やESD学外実習を通じて、実社会に役立つ応用研究の推進や地方自治体や地域社会への貢献を行う。</p> <p>3. 大学間および部局間協定校との国際連携を図ることにより、若手研究者の研究面での交流を推進する。</p>	<p>1. 大学院と連携して、質の高い課題研究を指導することに努めた。このことが、各種学会賞等の受賞やCREST等の外部資金獲得などの成果として現れている。 また、環境理工学部研究報告書の内容にアブストラクト集を加え、データを電子化することにより、研究成果を広く社会に還元することができた。</p> <p>2. キャンパス内水循環施設の施設整備が進み、同施設を活用した各種競争的資金の申請や学生の卒業論文の作成が行われるなど、研究面での活用が推進されている。</p> <p>3. 大学間および部局間協定校との国際連携を図ること目的に、学部長裁量経費による環境理工学部国際連携推進制度を設けた。</p>
達成度:		④ 3 2 1	
社 会 貢 献		<p>1. オープンキャンパス、高大連携によるキャンパス訪問、高校への出前授業や、スーパーサイエンスハイスクール校への支援協力を通じて、地域の高等学校等との連携を図る。</p> <p>2. 公開講座、市民講座などを通じて地域住民への貢献を行う。</p> <p>3. 免許更新制度等を通じて岡山地域を中心とした教員への貢献を行う。</p> <p>4. 前述の実践型教育での産官学民との連携取組を通じて社会貢献を行う。</p>	<p>1. 前述の高校訪問等の実施により連携を図った他、スーパーサイエンス校（岡山一宮高校、広島大学附属高校、徳島県立脇町高校等）やスーパーサイエンス校を目指す高校（金光学園）との連携を進めた。</p> <p>2. 例年どおり公開講座を実施した。また、工学フォーラム2010に参加し、ポスター展示を実施し、工学の役割や魅力を社会に対して伝えることができた。</p> <p>3. 免許状更新講習の講義を8コマ開講し、教員の知識向上に協力することができた。</p> <p>4. 前述の実践型環境教育の推進を通じて、岡山市環境保全課やNPO法人と協力しての地域貢献や、タイ国カセサート大学との交流による国際貢献を大いに果たすことができた。</p>
	達成度:		④ 3 2 1
	評 価 の 客 観 的 指 標 ・ 定 義	事 項	定 義（抜 粋）
学部入試倍率		評価年度の前年に実施した入試と評価年度に実施した入試の志願倍率 算出方法：前期入試、後期入試、AO入試及び推薦入試毎及び各入試の合計により算出した「志願者÷募集人員（小数点3位を四捨五入）」の数値	
大学院充足率		評価年度と評価年度の翌年度の充足率 算出方法：4月入学者の「入学定員÷入学者数（小数点3位を四捨五入）」の数値。	
留年・休学・退学者数		評価年度と評価年度の翌年度の留年・休学・退学者数 留年：正規の在学年数を経過したにも関わらず卒業延期となっている者	
就職率		評価年度のデータが揃わないこと等が想定されるため、比較可能な直近3年程度の推移・傾向から判断する。	
科研費申請率、科研費採択率、採択金額			
共同研究件数、受託研究件数、受入金額		評価年度の前年と評価年度に実施しているとして公表した共同研究及び受託研究件数、受入金額	
<p>【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。</p> <p>意欲の高い学生の確保のために戦略的な広報活動や高大連携を推進し、(1)広報戦略室の設置、(2)教員研修会への外部講師の招聘、(3)スーパーサイエンス校への教育支援と連携、(4)学部案内の全面改定、等の事業を今年度新たに行った。その結果、本学部と高等学校及び関係者との密な関係を築くことができた。また、本学部で積極的に進めている「水辺環境学」、「ESD学外実習」等の実践型教育は、岡山市環境保全課やNPO法人の全面協力の下、アンケート調査で高い評価を得るなど学生の評判も良く着実に成果を残している。キャリア教育は、学部必修科目「環境理工学入門」において教育を行っていることもあり、本学部学生のキャリアについての意識も高く、率が全てではないが全国でも高い就職率を保っている。早い時期にその成果を定量的に把握したいと考えている。研究については、種々の学会で表彰されるなど質の高い研究を行っているが、異分野融合等に関する新たに研究プロジェクトを立ち上げを進めることも必要である。学部運営については、外部有識者の意見を参考に社会からの要請に応じた、より魅力的な組織になるための方策について検討する。</p>			
<p>【達成度】 4：非常に優れている 3：良好である 2：概ね良好であるが改善の余地あり 1：不十分であり改善を要する</p> <p>注）本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。</p>			